

ささえあい通信

第2号

(発行)2020年7月 3日 富士宮市社会福祉協議会 地域ささえあい係

つながりを切らない、孤立させない、
新しいつながりを考える情報を各地区社協へ発信!!

～事業計画の変更・見直し～ 各地区社協で、 協議が始まる

4月から6月にかけて開催された各地区社協の総会は、1地区は規模縮小での開催、残り13地区は書面開催となりました。

例年総会が終了すると、事業が実施されていますが、現在もコロナ禍で「3密を避ける」などの感染防止の対応を強いられる中で、大勢の人が集まる「ふれあい交流」「ふれあい給食」「ふくし講演会」などの事業の見直しが始まりました。

A地区社協の検討会議では、集まらないことを前提に(1)健康、詐欺等の注意喚起に関するチラシを届ける(2)元気になるようなメッセージカードを子どもや若者に協力してもらい届ける(3)不安や心配ごと等をメールや電話で伺う(4)手作りマスクを届ける(5)花鉢を届ける等の活発な意見が出されていました。

また、1月末に逝去された依田秀男様の奥様より「地区社協の活動に役立ててほしい。」と多額の寄付をいただき、今年度は6月に開催予定であった「ふれあい給食」も中止となり、以降の事業も中止や変更の検討を行う必要がある中で、「マスク配布事業」を実施することとなりました。

6月初旬から、各町内会長、班長より、1人10枚、合計7,390枚が配布されました。地区内の班長よりマスクを受け取った高齢世帯のAさんは、「コロナウイルスの感染がいつまで続くかわからない中、依田さんや猪之頭地区社協のみなさんのあたたかい気持ちに感謝しています。大切にに使わせていただきます。」と感謝の言葉を述べられていました。

新型コロナウイルス感染の終止符が打たれない今日、各地区社会福祉協議会では「住民どうしの交流を通して、地域のつながりを深める」ことを目的に実施してきた「給食会」「交流会」等の事業の見直しが必要とされます。

孤独、孤立、引きこもり、いじめ、虐待、自殺、貧困、生活困窮…等の社会問題が起きる中で、地域とのつながりのない、地域への関心のない、寄り添ってもらう家族のない、誰かに助けてほしいと言えない人たちを支えていける地域をめざすため、「いま、地区社協でできること、地区社協でなければならないこと」について、ご検討いただけるようお願いいたします。各地区社協担当者もご支援させていただきます。



▲植松会長ら役員3人がマスクを手渡す(岳南朝日新聞 提供)

コロナに負けない!! 全区民にマスク配布 猪之頭地区社会福祉協議会

植松 誠市 会長

6月初旬、猪之頭地区社会福祉協議会では、猪之頭区、麓区の区民 739 人に新型コロナウイルス感染防止を図るため、マスクの配布を行いました。

コロナ禍の中、猪之頭区、麓区には、地区内の行楽地に県外から多くの観光者が訪れるため、コロナウイルス感染防止への意識が高くなっていました。